

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 木津川市立上狛小学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	木津川市立上狛小学校 5年生（20名） 6年生（35名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間）
4 目標 （ねらい）	（1）パラリンピックで行われた競技を体験することで、障害者スポーツへの興味・関心を育む。 （2）スポーツを通して障がいのある人たちへの理解を深め、互いに個性を尊重し合って共生できる社会をつくるために、できることを考える。
5 取組内容	<p>（1）事前学習</p> <p>①パラリンピックについて調べる。 ②パラリンピック種目について知る。 ③車いすバスケットボールの形式やルール、東京パラリンピックに出場する選手について知る。</p> <p>（2）車いすバスケットボール体験学習 令和3年11月22日（月） 講師：パラリンピックアテネ大会 日本代表 阪根 泰子 氏 NPO 法人 みやこらぼ 東 武志 氏</p> <p>①車いすバスケットボールについての話 （車いすの特徴や操作体験、競技ルールなどについて）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

②車いすバスケットボール体験
(グループ対抗の試合を行う。)



③質疑応答



(3) 事後学習

- ①車いすバスケットボールをやってみて感じたことや考えたことを話し合う。
- ②共生社会の実現に向けて自分たちにできることを考え、話し合う。
- ③調べたことや体験したことをまとめ、全校に発信する。

(4) 掲示板

車いすバスケットボール体験や東京パラリンピックについて調べたこと、車いすバスケットボールチームの活躍の写真等を掲示する。



6 主な成果

- (1) 車いすバスケットボールについて調べたり、実際にやってみたりすることで、競技を身近に感じることができた。
- (2) 車いすバスケットボールを通して、障がいのあるなしにかかわらず、誰もがともに楽しむことができるスポーツのよさを体感できたという児童が多かった。
- (3) アスリートの技術や能力の高さを実際に目の当たりにすることができる貴重な機会となった。また、講師の先生のお話から、目標を持って努力することの大切さを教えてもらうことができた。
- (4) 体験学習での学びを全校に発信することで、体験していない児童もパラリンピックに対する興味、関心を高めることができた。

	(5) 教職員全体で研修を行うなどして理解を深め、事前学習、事後学習についても計画的に進めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 講師に2名来ていただいたことで、実際の競技に近い形でパフォーマンスされる姿を見せていただくことができた。</p> <p>(2) 車いすの借用と運搬をNPO法人に委託することで、事業の準備等の負担を軽くすることができた。</p> <p>(3) 掲示板を作成し、パラリンピック東京大会の様子を体験していない児童や保護者に啓発することができた。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染防止のために、車いすやボールの数を増やし、できるだけ器具や用具の共有が少なくなるよう配慮した。</p>
8 主な課題等	<p>(1) 本年度も、コロナ禍のために内容の検討や指導者等との調整に時間を要し、開催時期が遅くなった。</p> <p>(2) 今年度も密集を避けるために、保護者や地域に幅広く呼びかけることができなかった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 来年度も、継続して車いすバスケットボール体験を行い、パラリンピックや障がい者への理解教育を進める予定である。</p> <p>(2) 人権学習と関連させ、さらに理解を深めさせていきたい。</p> <p>(3) PTAとも連携し、保護者の参加を呼びかけ、障害者スポーツや生き方についても広く知り考える機会としたい。</p>